

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	21139	
事業名	図書室・図書コーナー等運営費						
評価担当課	所属名	教)中央図書館 利用サービス課					
	課長名	今堀 永	担当者名	押尾紗有里・卯都木	電話番号	011-512-7320	
施策名	主	-					
	副						
アクションプラン	○ 対象 ● 対象外		戦略ビジョン	○ 対象 ● 対象外			
事業の性質	● 経常経費 ○ 臨時的経費						
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理						
事業内容	実施形態	○ 直営 ○ 一部委託 ○ 全部委託 ○ 補助助成 ● その他					
	目的	短期	市民の読書活動や学習活動に寄与する。				
		長期	同上				
	取組内容	区民センター・地区センター図書室等30カ所及び図書コーナー4カ所における図書館サービスの展開 運営は各指定管理者・各施設運営主体に委ね、必要なサービス確保に向けたサポートを行う ①図書等の購入(利用者のニーズ等を踏まえた新刊図書等の購入) ②図書室運営に係る指導及び各図書施設との連絡調整					
実施結果	新型コロナウイルス感染拡大防止のため5月4日から7月11日まで、8月29日から9月30日までは、臨時休館となったが、各地域の身近な図書施設として、図書資料の拡充(蔵書冊数983, 520冊)、図書の貸出(貸出冊数1, 698, 859冊)、資料レファレンスなどにより幅広い市民へ図書館サービスの提供を行った。						
事業実施における工夫点	一部施設を除く各図書施設をオンラインで結び、所属する資料の市内全域にわたるサービス網を確保している。						
対象者	市民、市内に通勤・通学している他市町村民			開始	0 年度	終了	0 年度
関連法令・条例・要綱等	図書館法・札幌市図書館条例・札幌市図書館条例施行規則						
他都市の状況	他都市においても同様の事業がある。						

◎事業費

(単位:千円)

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算	
事業費	19,894	20,000	19,014	20,000	
うち特定財源	0	3	3	0	
人工	2.7	2.7	2.7	2.7	
人件費	19,440	19,440	19,440	19,440	
計(事業費+人件費)	39,334	39,440	38,454	39,440	
事業費の内訳	令和3年度決算	時間外勤務手当 724千円 消耗品費・印刷製本費 1, 610千円 新刊図書等購入費 13, 405千円 会計年度任用職員報酬費等 1, 199千円 運営に係る費用 2, 076千円			
	令和4年度予算	時間外勤務手当 1, 296千円 消耗品費・印刷製本費 1, 643千円 新刊図書等購入費 14, 330千円 会計年度任用職員報酬費等 1, 197千円 運営に係る費用 1, 534千円			

◎検証(振り返り)

活動指標1		指標名	蔵書冊数(冊)		
		令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定
		998,775	1,005,000	983,520	1,000,000
活動指標2		指標名			
		令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定
成果指標1		指標名	貸出冊数(冊)		
		令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標
		1,919,573	2,200,000	1,698,859	2,200,000
成果指標2		指標名			
		令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標
項目	判定	理由			
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	B	貸出冊数は前年度比11.5%減であり、予約冊数は前年度比21%減となった。これは、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により、2か月間以上の図書室休室の影響とともに、外出自粛等で、利用を控える傾向にあったことが原因だと推測される。			
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	他の政令市と比較すると、蔵書数及びサービス拠点のどちらも上位となっていることから、当事業による運営施設を含めた市内におけるサービス網確保は、一定の成果が挙げられている。			
事業の実手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	図書を含めた施設全体を各指定管理者・各種施設運営主体が一体的に運営することで業務の効率化が図られている。			
対象者の満足度 (対象者のニーズにしているか)	A	図書館法その他関係法令の主旨に照らし、市民に図書館サービスを提供するための環境整備は重要な責務である。また、市内各所において図書館サービス網の欠落を生じさせないためにも、区民センター図書室等の施設はきわめて重要な拠点となっている。例年実施している利用者アンケートでの利用者満足度は9割を超えており、市民の読書活動や学習活動等、地域住民の生活に密着した施設となっている。			
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input type="checkbox"/> 実施 <input checked="" type="checkbox"/> 評価 <input type="checkbox"/> 対象外		市民参加結果への対応 <input checked="" type="checkbox"/> 回答 <input type="checkbox"/> 反映		
今後の改善点	地域の身近な情報拠点として一層活用されるよう、内容・冊数ともに蔵書を充実させ図書室の魅力創出を図る必要がある。寄贈図書を積極的に活用しているが、それだけでは利用者に必要かつ魅力的な資料を十分に提供できているとは言い難く、蔵書の新陳代謝が図られていないことで貸出冊数の伸びが鈍化していることは否めない。予算執行面の改善等により図書購入費を確保したうえで、利用者の多様な要求に応えられるタイトル数確保に努める。				
前回の評価	<input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> 評価省略対象事業・前年度実施なし				
今年度取り組んだ見直し内容	なし		見直し効果額 (前年度)	0 千円	
今回の評価	<input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> 評価省略対象事業・前年度実施なし				
評価の理由	利用者アンケートでは、蔵書数に関する不満度合いは一定数あるものの、全体の満足度は9割を超えているため。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	<input checked="" type="radio"/> 改善 <input type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 休止・廃止 市民からの寄贈図書を活用するほか、資料購入においては、区民センター・地区センター図書室の資料選定の調整等を行い、タイトル数を確保することで、図書購入予算を効率的に執行する。			
	予算	<input checked="" type="radio"/> 拡充 <input type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 縮小 <input type="radio"/> その他 市民の読書・生涯学習意欲に応えるためにも図書館サービスの量的・質的拡充を図るための図書購入予算の確保が必要である。		見直し効果額	0 千円